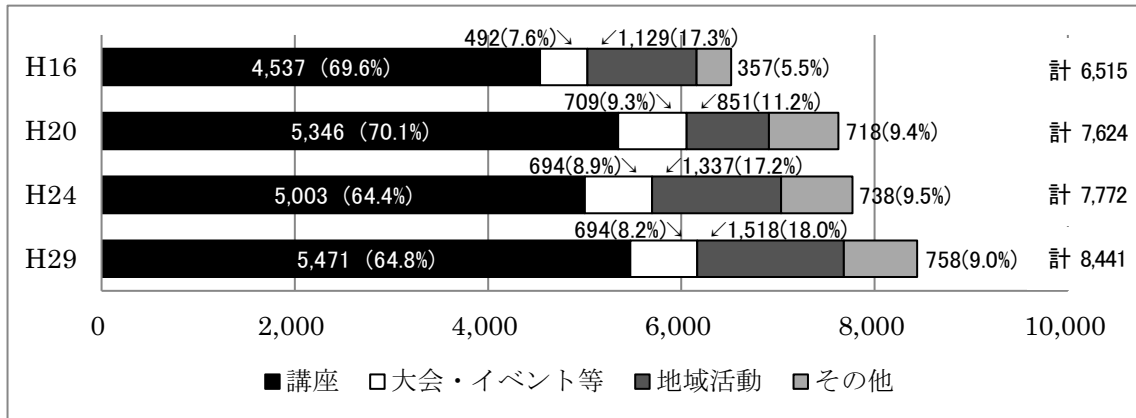


Ⅲ 公民館事業等の現状について

1 公民館事業の現状

公民館事業数は増加傾向にあり、「地域活動」が増加している。また、「講座」の割合が約3分の2である。

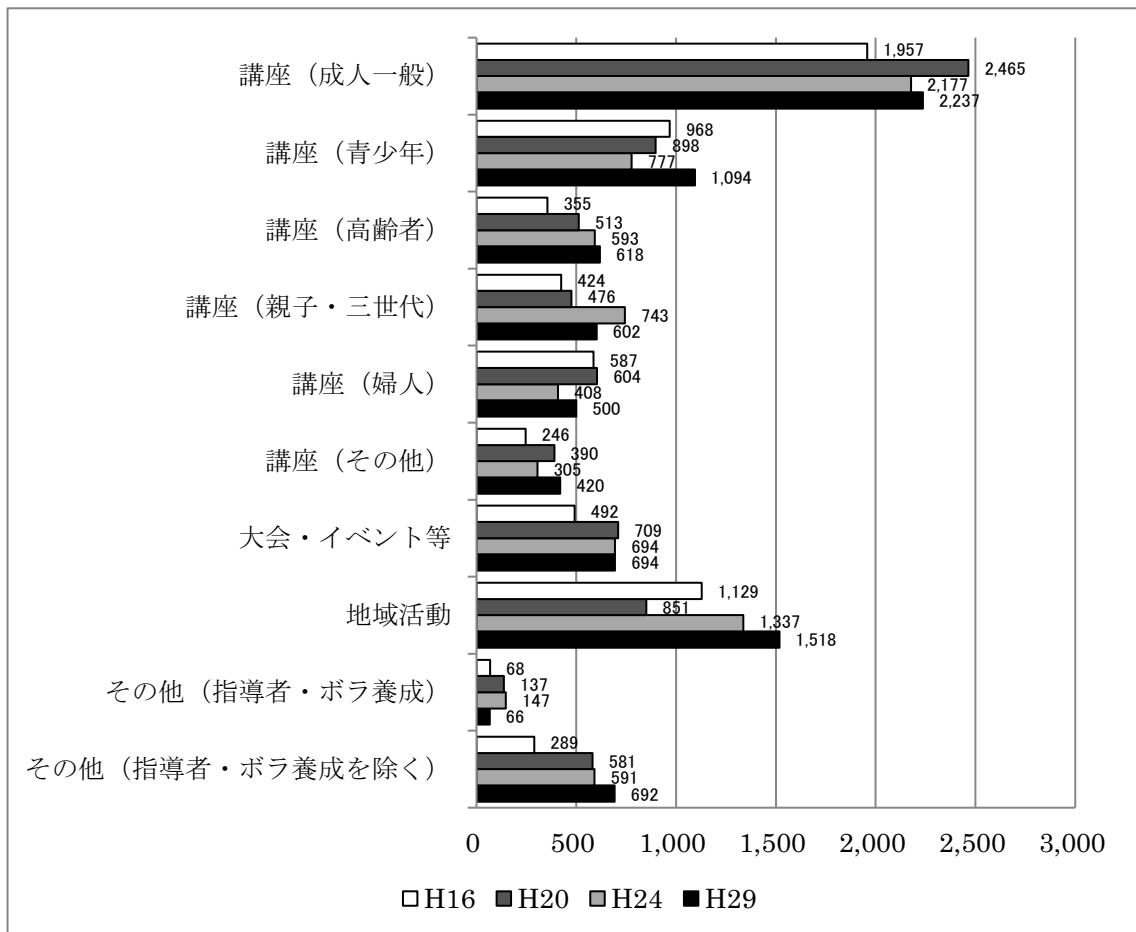
図32 公民館事業数の推移 (H16…n=428, H20…n=426, H24…n=436, H29…n=407)



◆「県教育庁生涯学習課資料」のデータを元に作成

「成人一般向け講座」が最も多く、「地域活動」「青少年向け講座」が過去の調査と比べて増加している。また、「高齢者向け講座」も増加傾向にある。

図33 区分別公民館事業数の推移 (H16…n=428, H20…n=426, H24…n=436, H29…n=407)



◆「県教育庁生涯学習課資料」のデータを元に作成

【1 公民館事業の現状についての自由記述】

利用者の高齢化による課題

- ・人口減少、高齢化により、行事が難しい。町の行事の中心的な役割を果たせればよいと思う。(他1件)
- ・公民館利用者の高齢化が顕著で、若い世代の参加が少なく、クラブ講座など自主的な学習活動の継続が難しくなっている面がある。(他1件)
- ・高齢化による利用者の減少と固定化が課題である。
- ・人口減少と少子高齢化社会に対応した幅広い人や団体が支え合うまちづくりを推進していくことが大切である。
- ・少子高齢化による地域住民の激減、課題が様々ではあるが、参加協力を得るのが難しい。
- ・高齢化等により、公民館へ行きたくても行くことができなくなった人たちへの学びの保障をどうするか考えなければならない。
- ・少子高齢化の中、高齢化率が高まる中山間地にあるため、公民館活動にとっては交通手段の確保が不可欠である。交通弱者の対策が必要である。
- ・過疎少子高齢化のため、公民館生涯学習の学びへの参加が少なくなったが、仕方がない現状かと思う。
- ・健康福祉との連携講座の開設や協働体制づくりによる高齢化への対応が必要である。
- ・少子高齢化地域における、生涯学習の拠点としての役割とは何かを考えなければならない。
- ・当地域は少子高齢化が進み、高齢者が高齢者を支える事態になっている。今後はいかに動ける体と頭を維持していくかが重要と思う。それに役立つ講座等を充実させていきたい。
- ・今後ますます地域の人口減少、少子高齢化が進み利用者の減少が予想されるので、来館が困難な人への対応、例えば出張事業等も考える必要がある。

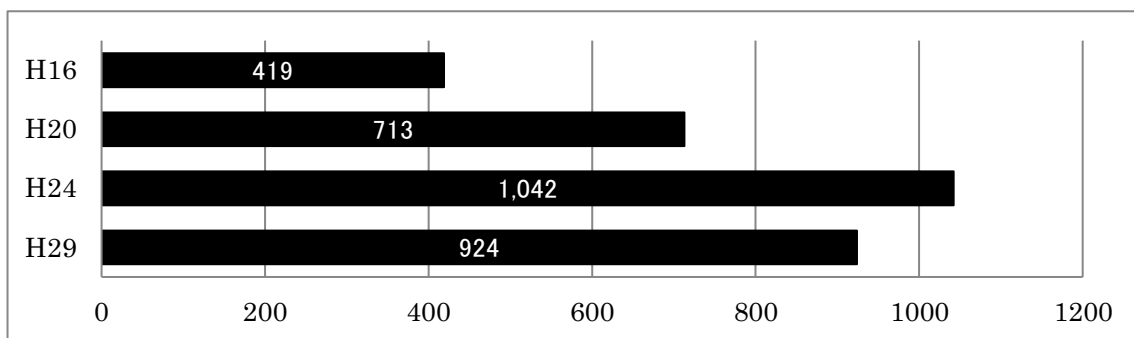
ボランティア活動の推進

- ・中高生や大学生にも、ボランティア活動等の公民館活動への参加を呼びかけていきたい。
- ・住民やボランティア、指導者の高齢化が進んでいる。若い世代の参加者やボランティアの育成の必要がある。
- ・様々な分野で地域のボランティアが活躍しているが、今後新たなメンバーや若い世代も参加し、活動の輪が広がっていくよう働きかけていくことが課題である。

2 事業連携の現状

他機関・他施設との連携事業数は、H16～H24まで増加傾向にあったが、H29で減少している。

図34 他機関・他施設との連携事業数の推移 (H16…n=428, H20…n=426, H24…n=436, H29…n=407)

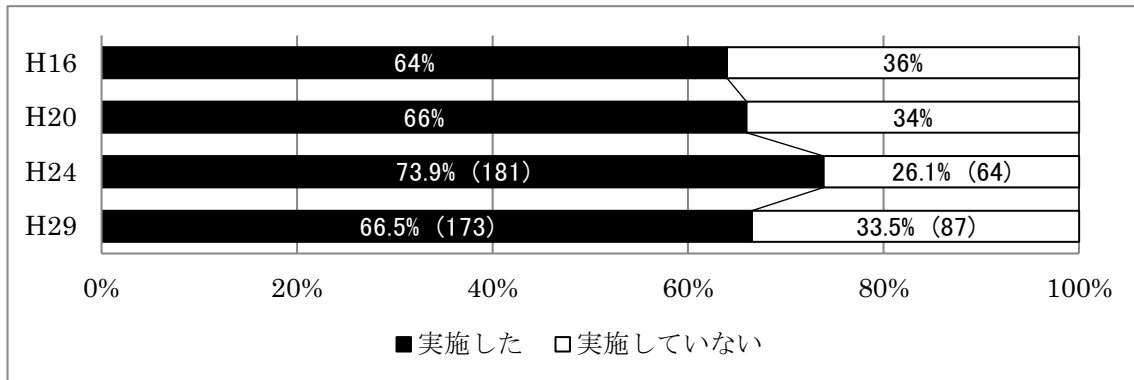


◆「県教育庁生涯学習課資料」のデータを元に作成

多様な団体・機関と連携して事業を実施した公民館の割合は、H24 と比べて減少している。

図 35 他部局、他の生涯学習・社会教育施設や団体・機関との連携事業実施状況

(過去調査との比較 H24・n=245, H29・n=260)

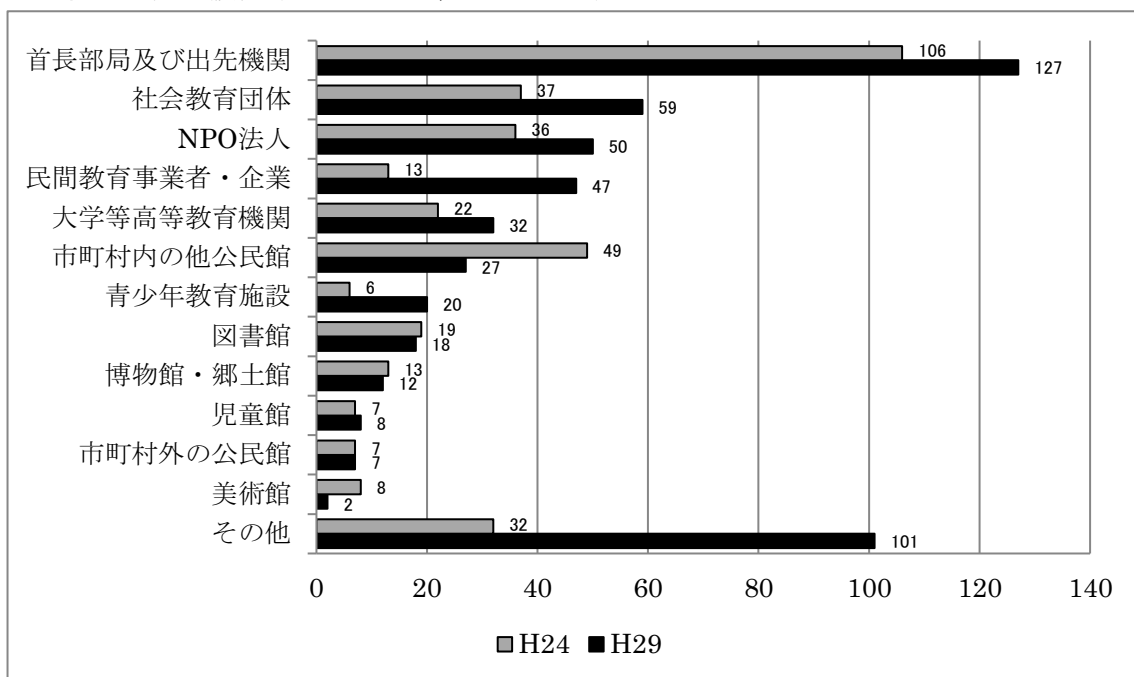


※H16及びH20は、過去3年間に他部局、他の生涯学習・社会教育施設や団体・機関との連携事業を実施したかどうかを調査

※H29は、現代的課題や地域課題をテーマとした主催講座を実施した公民館202館(P25の図40参照)のうち、多様な団体・機関と連携があった公民館173館を「実施した」と計上

連携先は、「首長部局及び出先機関」「社会教育団体」「NPO法人」「民間教育事業者・企業」等が増加している。

図 36 事業の連携先 (複数回答 H24・n=181, H29・n=173)

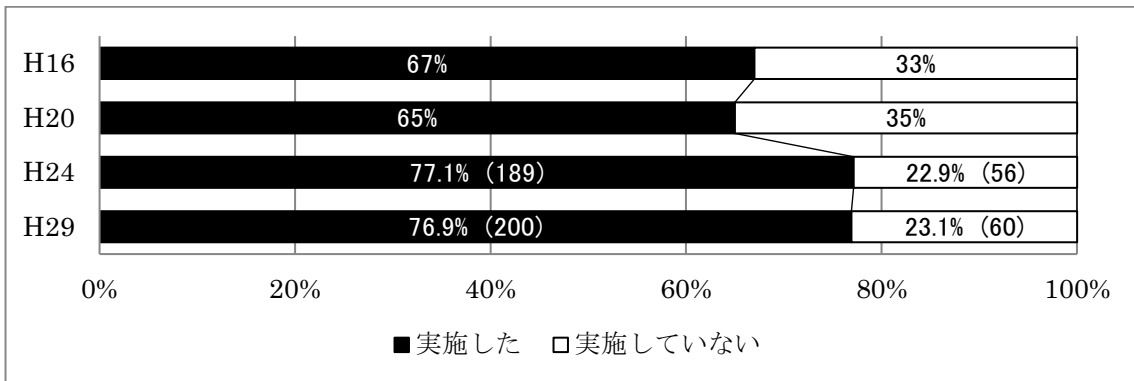


その他…※学校園を挙げている回答の他に

- 自治会 ○町内会 ○栄養改善委員会 ○愛育委員 ○地域包括支援センター ○警察 ○消防団 ○病院
- 婦人会 ○老人クラブ ○公民館のクラブ講座 ○地域の住民団体 ○住民有志・ボランティア
- 地域おこし協力隊 等

学校園と連携した事業・活動を実施した公民館の割合は、7割を超えている。

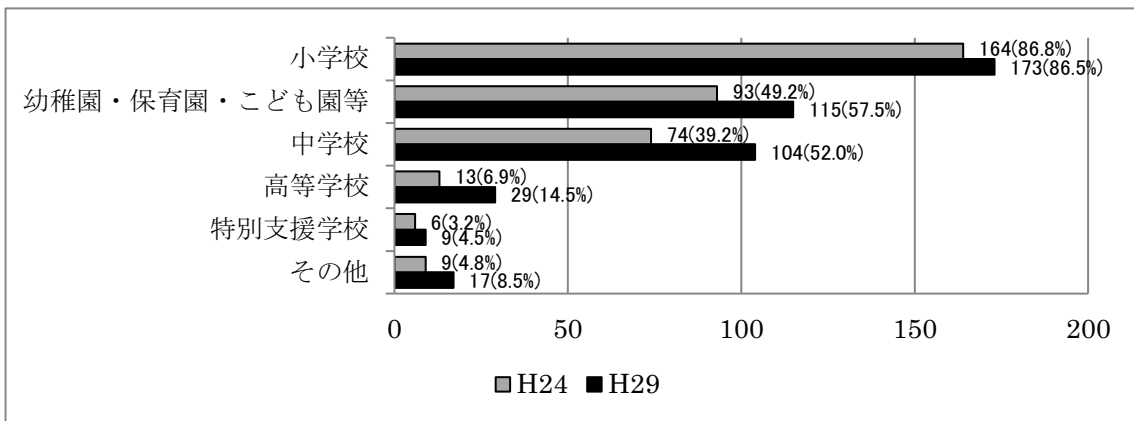
図37 学校園と連携した事業・活動の実施状況（過去調査との比較 H24・n=245, H29・n=260）



※H16及びH20は、過去3年間に学校園と連携した事業・活動を実施したかどうかを調査

連携先の割合は、「小学校」が約9割と最も多く、小学校以外の学校園でも増加している。

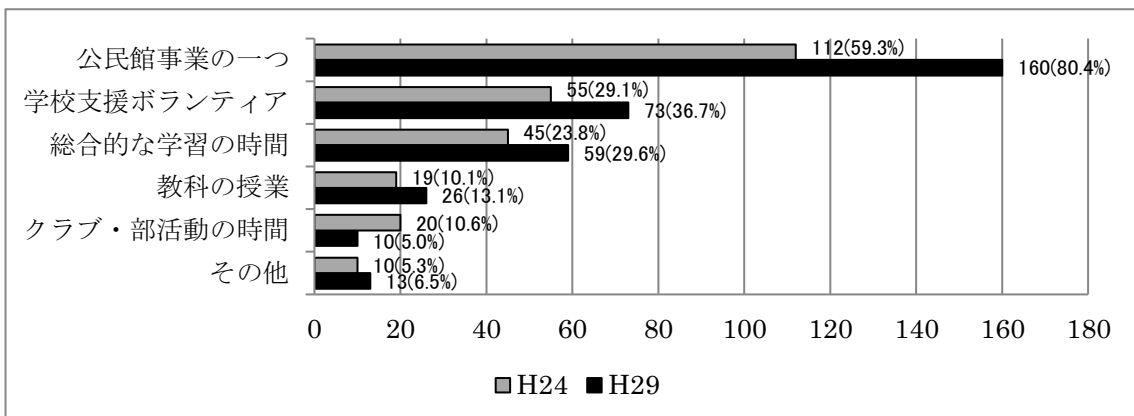
図38 事業の連携先の学校園種（複数回答 H24・n=189, H29・n=200）



その他…○大学（他8件） ○児童クラブ（他3件） ○高等専門学校（他1件） ○専門学校 ○児童養護施設 等

学校園と連携した事業・活動を、約8割の公民館が「公民館事業の一つ」と位置付けている。

図39 学校園と連携した事業・活動の位置付け（複数回答 H24・n=189, H29・n=200）



その他…○小学校の運動会等の学校行事（他3件） ○学校の校内研修 ○サマースクール等の教育課程外の活動（他2件）
○青少年健全育成 等

【2 事業連携の現状についての自由記述】

【学校園との連携】

- ・学校、家庭、地域社会と連携を図る公民館づくりを目指していきたい。(他1件)
- ・学校との連携が言われて久しいが、なかなか進まない現状がある。学校関係者とのフラットに話し合える関係を築かないといけない。
- ・児童生徒の参画と居場所の提供等で、学校とコミュニティの連携が可能であると感じている。
- ・少子高齢化社会の中で、学校と公民館が連携した地域づくりが求められている。
- ・運営委員会を定期的に開催し、公民館の運営や年間計画について検討し、今後の活動につなげていきたい。地元の中学校とはボランティア活動として行事に参加してもらっているが、中学校、高校ともう少し連携を図っていきたい。
- ・子どもたちの防災意識を育むために、学校防災と地域防災とをつなげた防災教育を公民館のカリキュラムに取り入れてみたい。

【首長部局との連携】

- ・支出局から公民館活動をはじめとする社会教育の理解と応援が不可欠である。
- ・首長部局と相互乗り入れで事業展開するべきである。
- ・少子高齢化とともに急激な過疎化等の進行により地域住民のニーズに対応した講座や講演を開催しても人を集めることが年々難しく、利用者も減少傾向になってきているため、積極的に市長部局との連携を図り、まちづくりの核となるような取組をしていきたいと思っている。
- ・勝北地域においても、少子高齢化の急速な進行、生活様式の変化等により、地域課題は山積している。その課題解決の中心的役割は、地域の特性を理解している支所(市役所)と公民館が担っていかなければならない。支所はハード面とソフト面の整備の拠点、公民館は「生きがいつくり」の拠点として互いに密接な連携を保ちながら「まちづくり」を進めていかなければならないと考えている。

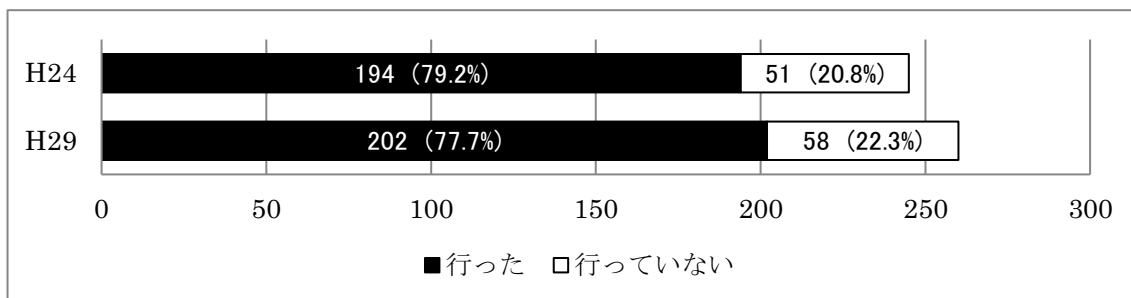
【その他、外部機関との連携】

- ・地域の課題解決に向けて、公民館職員が地域住民、各種団体と協働して活動することがますます必要になる。(他3件)
- ・NPOや企業との連携、協働が重要である。(他3件)
- ・地域との連携と活性化が必要である。(他2件)
- ・公民館同士の連携の強化、過疎に苦しむ公民館どうしでの課題の共有等が必要である。(他1件)
- ・地域支援づくりを支援する役割を高めていきたい。そのための地域の団体との連携の強化、次世代を担う中高生の参加に期待したい。
- ・若者が少なくなっている中、地区内の課題として認知症問題をはじめとする高齢者へのケアが重要になってきており、社会福祉協議会との連携が増している。
- ・公民館と住民自治協議会のような地域づくりの団体との連携と住み分けの研究が必要と思っている。
- ・地域のボランティア団体を含む各種団体、学校園、地元企業等とつながりを持ち、ESD、SDGsの視点を持って地域の課題解決に向けた取組を行う。
- ・当管内においては、各地区のコミュニティ団体が地域の課題にしっかりと取り組んでいるので、連携協力をしていくことが肝要と思っている。
- ・高齢化、まちづくり、防災等、地域課題は数多くあるが、行政職員は公民館を活用しきれていない部分が多いように感じる。縦割りではなく職域を超えて連携しながら事業を行えるツールとしての公民館であらねばならないと、自戒を込めて考えている。
- ・社会の目まぐるしい変化に伴い、地域力の向上、地域活性化のために実施してきた学社連携活動がしにくい時代になった。
- ・少子高齢化が著しい島しょ部において、公民館の役割は非常に大きくなっている。まちづくり協議会、町内会、社会福祉協議会など地域を担う他の組織との連携強化、役割分担の整理と明確化が早急に必要だと考えている。

3 現代的課題と地域課題に関する講座

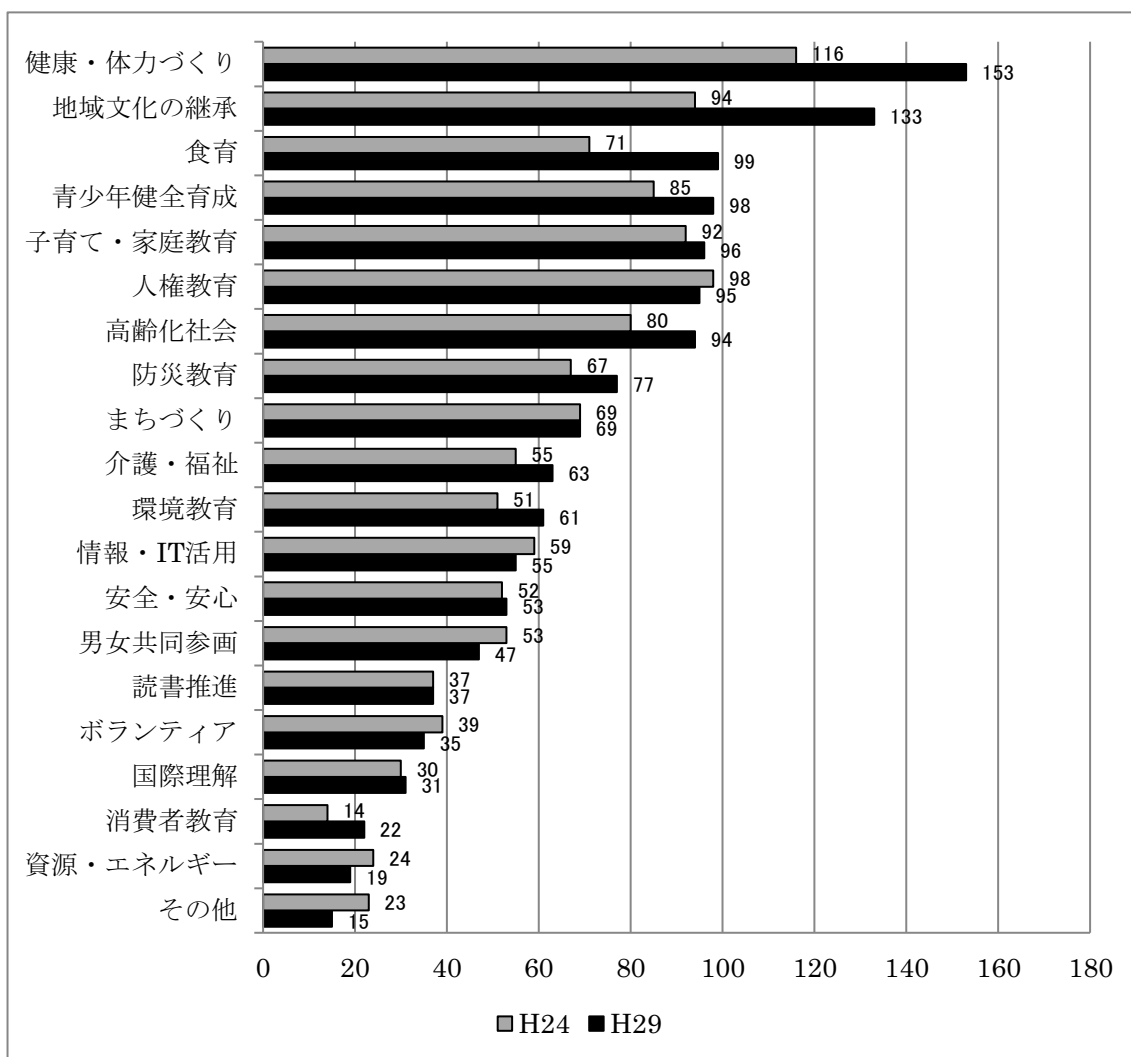
現代的課題や地域課題をテーマとした主催事業を実施した公民館の割合は、約8割である。

図40 現代的課題や地域課題をテーマとした主催講座実施状況 (H24・n=245, H29・n=260)



主催講座として取り上げた現代的課題や地域課題として、「健康・体力づくり」「地域文化の継承」「食育」等で増加し、「人権教育」「情報・IT活用」「男女共同参画」等で減少している。

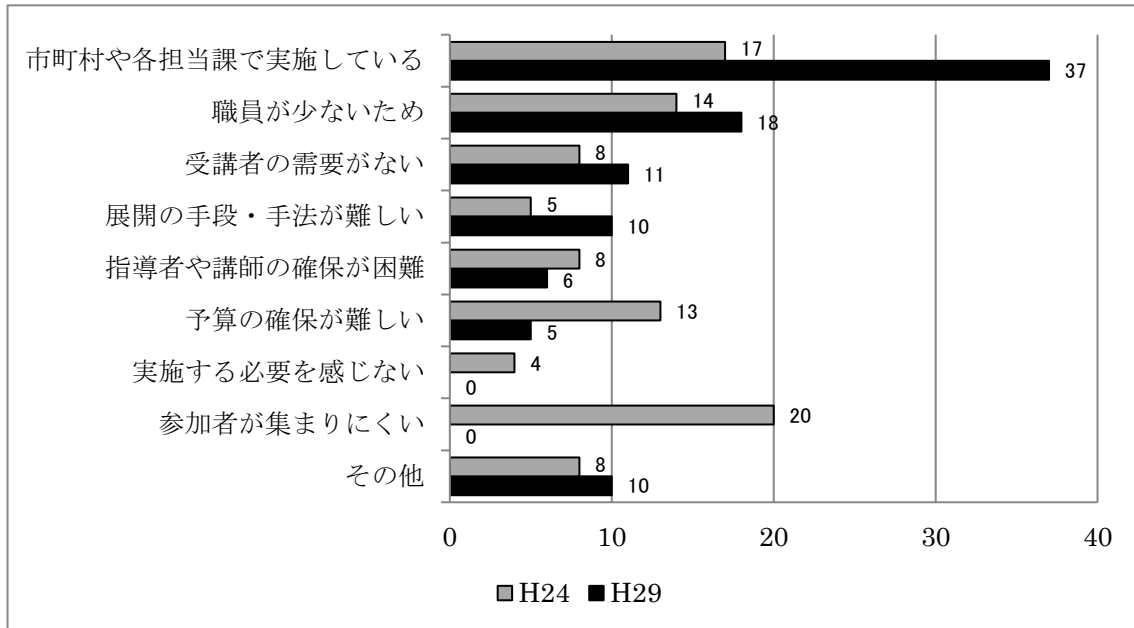
図41 主催講座として取り上げた現代的課題や地域課題 (複数回答 H24・n=194, H29・n=202)



その他…○平和教育 ○園芸教室 ○絵画教室 ○木工教室 ○科学教室 ○文学 ○一般教養 ○学力向上 等

現代的課題や地域課題に関する主催講座を実施しなかった理由として、「市町村や各担当課で実施している」という回答数が、H24 と比べて約2倍に増加している。

図42 現代的課題や地域課題に関する主催講座を実施しなかった理由（複数回答 H24…n=50, H29…n=58）



その他…○社会福祉協議会やまちづくり協議会等の団体が実施している。（他4件）

○地域の結びつきが薄く、大学との連携により一般市民に向けて教養講座を開催するような知識の習得を行っている。
等

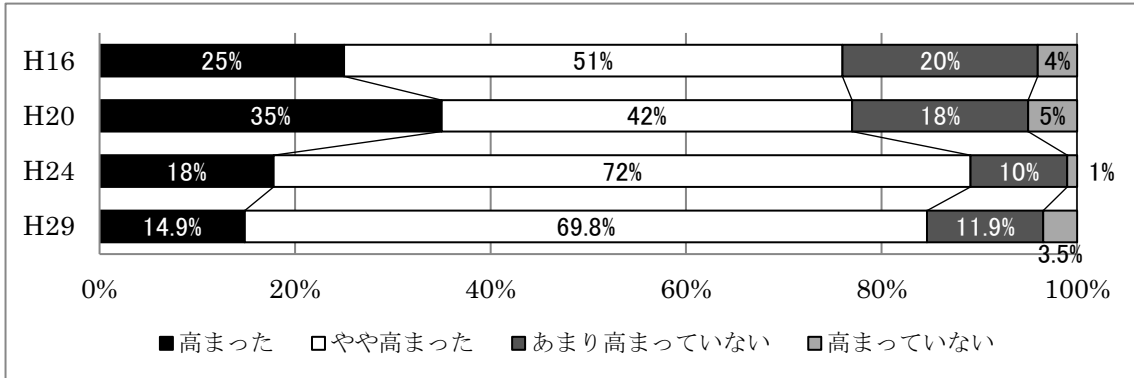
※「実施するのを感じない」の項目がH29で0となっているのは、回答がなかったため

※「参加者が集まりにくい」の項目がH29で0となっているのは、選択肢を設けなかったため

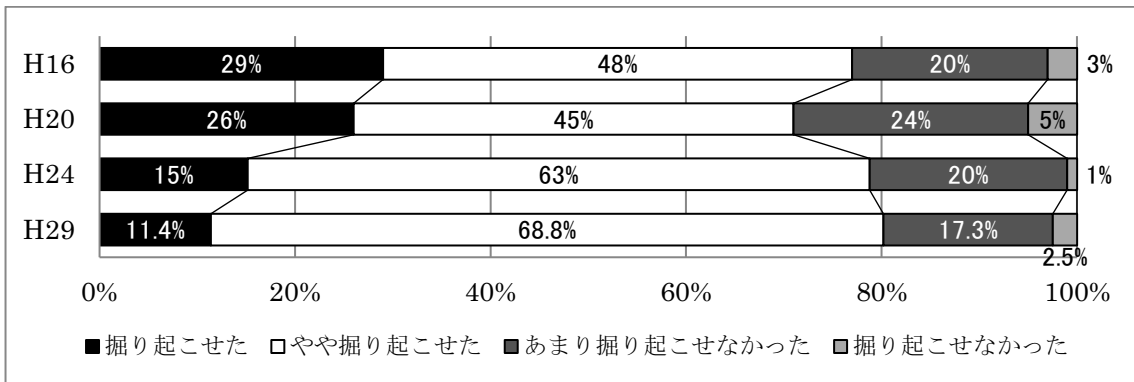
主催講座の実施を通して、「③課題を考え、解決しようとする団体・グループができたか」の問いにおいて、肯定的な回答の割合が減少傾向にある。

図 43 主催講座の実施を通しての地域住民の変化（過去調査との比較 H24・n=194, H29・n=202）

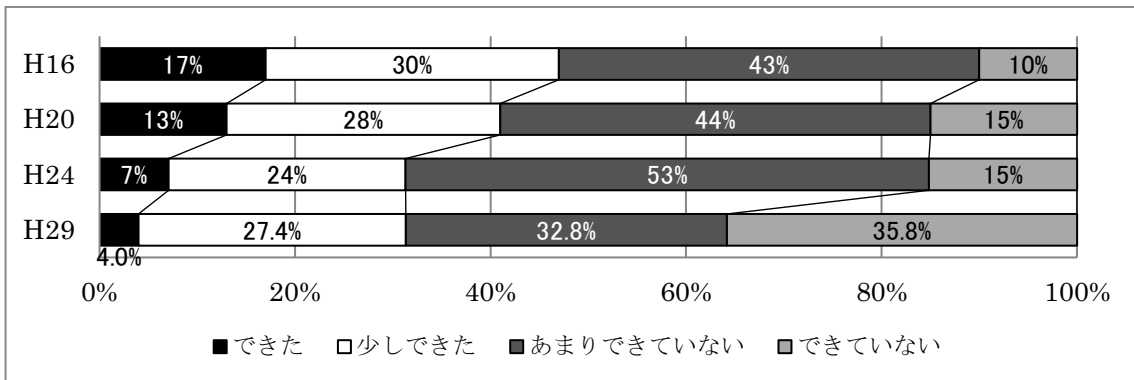
① 様々な現代的課題や地域課題に対する興味関心が高まったか



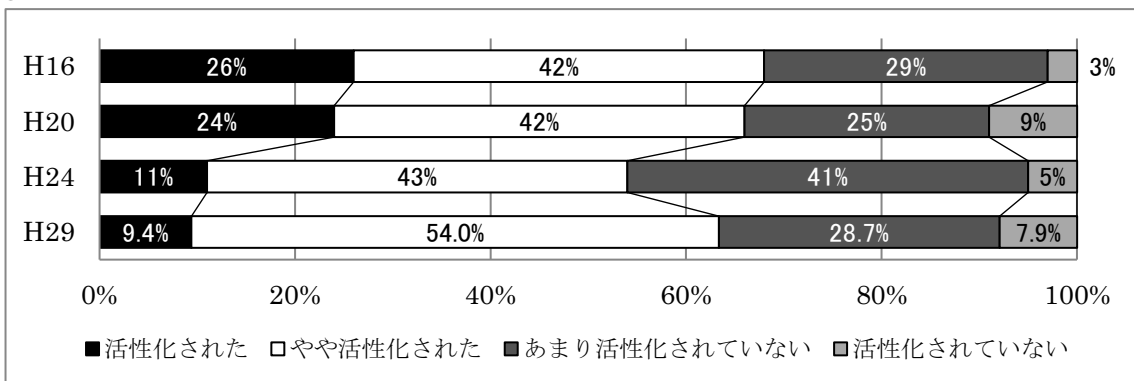
② 学習に対する意欲やニーズを掘り起こすことができたか



③ 課題を考え、解決しようとする団体・グループができたか



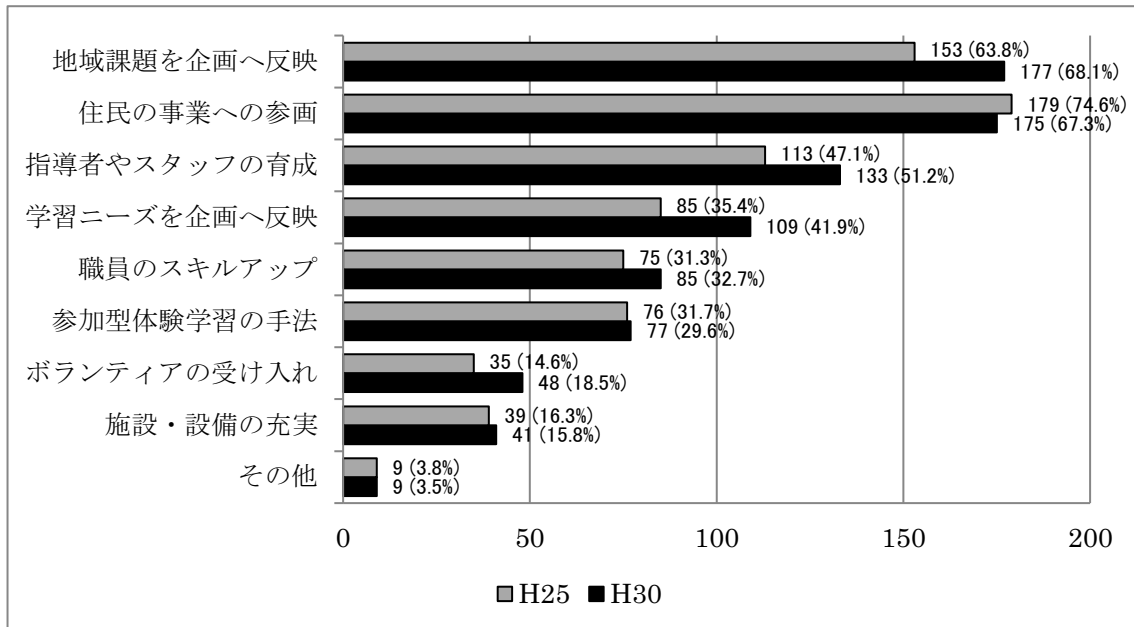
④ 地域にある団体・グループの活動が活性化されたか



主催講座の内容を充実させるために、「地域課題を企画へ反映」「住民の事業への参画」が重要であるという回答の割合が、6割を超えている。また、「指導者やスタッフの育成」「学習ニーズを企画へ反映」「職員のスキルアップ」等が増加している。

図44 現代的課題や地域課題に関する主催講座の内容を充実させるために重要なこと

(複数回答 H25・n=240, H30・n=260)



その他…○地域コミュニティ等との連携 (他2件) ○公民館が現代的課題や地域課題に関する主催事業を行うという認識
○予算の確保 ○高齢化・過疎からの脱却 ○首長部局の公民館に対する意識の向上 等

【3 現代的課題と地域課題に関する講座についての自由記述】

- ・乳幼児から高齢者まで幅広い年齢層に合わせた講座の企画が必要になってくる。
- ・公民館自主講座、主催講座の充実と呼びかけと支援、ニーズに基づく講座の提供が重要である。
- ・参加の年齢層が決まっており、中高生や20～40代の参加者ニーズがつかみにくいため、事業活動に偏りがみられる。
- ・講座のマンネリ化がみられ、新規講座を開発するなど改善に取り組んでいかないといけないと考えている。
- ・少子高齢化に伴い、利用者の減少が見込まれ活動範囲も狭くなっていく可能性があると思われるので、利用度を上げる努力が必要不可欠である。例えば書道、華道等、地域にあった講座の開設の検討や地域の指導者の有効利用を考えなければならない。
- ・地域の高齢化が進み、高齢者の居場所づくりの意味も含め、公民館に気軽に足を運んでいただけるような、例えば健康、食、身近な課題、地域課題等の企画事業の推進を図ることが重要である。
- ・高齢化が進み、公民館利用者も高齢の方が多く、講座についていえば、ジャンルや年齢層に偏りが出がちであるが、市内公民館のバランスを考えながら、様々な年齢層が参加できるような講座を行うようにしている。
- ・アンケート項目にある「現代的課題や地域課題に関する主催事業」について、当地区では、地区社会福祉協議会で課題解決に向けた取組として研修会、アンケート実施等を行っており、必ずしも公民館主催でなくてもよいと感じる。